

スーパーマーケット景気動向調査

2022年4月調査結果（3月実績）
（2022年4月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

4月調査（3月実績）結果概況

景気判断DIは現状・見通しともに前月水準で推移

3月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から-0.9の44.7、見通し判断は前月から-0.3の38.7となり、現状判断、見通し判断ともに前月から大きな変化はみられなかった。

経営動向調査では、堅調な内食需要を背景に売上高DI、収益DIともにプラスとなった。畜産相場や水産相場の高値傾向による生鮮品仕入原価DI、原料価格等の高騰による食品仕入原価DIは、2011年の調査開始以来最高水準に上昇をみせており、販売価格、客単価の高止まりが続いている。一方で、買物頻度を抑える傾向は継続し、来客数DIが低い状況が続いている。

カテゴリ動向調査では、相場が高値傾向にあった青果DIでは前月に比べ、ふた桁のプラスとなった。また外食を控える意識や催事・花見需要の回復を受けた惣菜のDIも14.1とプラス幅が大きくなっている。(カテゴリ動向については最終ページに詳細を掲載)

景況感調査は、全体的に大きな変化はみられず、前月と同水準で推移している。(長期傾向についてはP11参照)

まん延防止等重点措置が全面解除された後も、内食傾向が続いており、食品販売は堅調な推移となった。一方で、すでに食品や原材料、包装資材などで価格改定が相次いでいる上、ウクライナ情勢や円安による影響を受け、さらなる価格上昇への警戒感の高まり、マスメディアによる「節約志向」「激安」などの報道も強まっている。今後の状況次第ではあるが、外出機会の増加や外食への需要流出など、2年以上続いた内食需要にも徐々に変化してくることも予想される。しかしながら、外出や節約志向には地域差や年代差が大きく、すべての消費者が一樣に行動変容するわけではない。社会のムードに流されることなく、顧客動向の変化をキャッチし、対応を図っていくことが極めて重要な局面が続くことになるだろう。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：44.7 (-0.9)
前月：45.6

消費者購買意欲DI
当月：45.0 (-0.8)
前月：45.8

周辺地域 競合状況DI
当月：43.0 (+0.6)
前月：42.4

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：43.2 (-1.0)
前月：44.2

見通し判断

景気判断DI
当月：38.7 (-0.3)
前月：39.0

消費者購買意欲DI
当月：40.3 (-1.0)
前月：41.3

周辺地域 競合状況DI
当月：40.5 (-0.2)
前月：40.7

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：41.8 (+0.5)
前月：41.3

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：1.2 (+0.9)
前月：0.3

客単価DI
当月：10.2 (-3.6)
前月：13.8

来客数DI
当月：-10.3 (+2.4)
前月：-12.7

収益DI
当月：1.0 (+2.1)
前月：-1.1

販売価格DI
当月：16.2 (+1.9)
前月：14.3

生鮮品仕入原価DI
当月：16.2 (-0.3)
前月：16.5

食品仕入原価DI
当月：19.4 (+1.5)
前月：17.9

カテゴリ動向

青果DI
当月：10.9 (+10.1)
前月：0.8

水産DI
当月：-8.2 (+0.9)
前月：-9.1

畜産DI
当月：-5.1 (-3.6)
前月：-1.5

惣菜DI
当月：14.1 (+2.5)
前月：11.6

日配DI
当月：-1.8 (-5.0)
前月：3.2

一般食品DI
当月：-1.9 (-2.5)
前月：0.6

非食品DI
当月：-2.0 (+2.8)
前月：-4.8

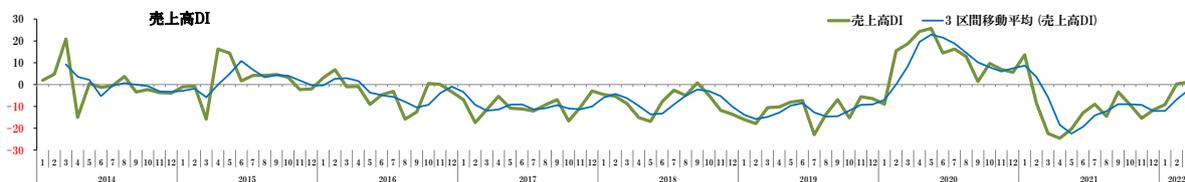
※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

2か月連続で小幅にプラス圏を維持

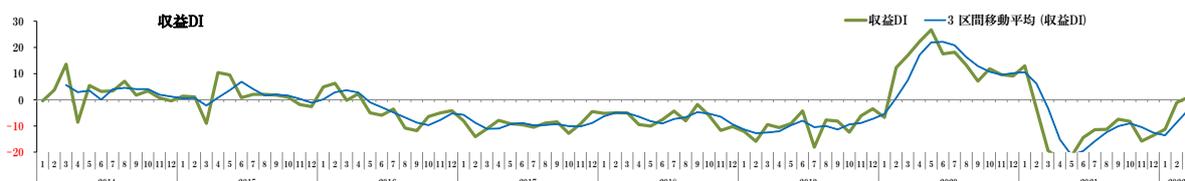
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	7.6	28.2	26.5	30.6	7.1	0.3
売上高 (当月)	3.4	30.2	28.2	34.9	3.4	1.2



2. 収益DI

小幅ながらプラス圏に浮上

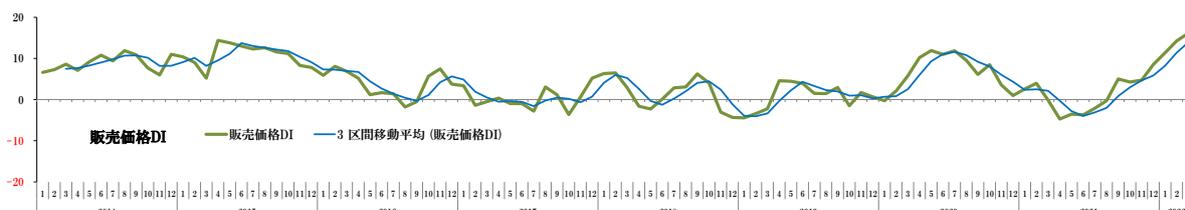
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	10.9	26.7	26.7	27.3	8.5	-1.1
収益 (当月)	4.1	28.6	32.0	29.9	5.4	1.0



3. 販売価格DI

7か月連続で上昇し、調査開始以来の最高値を更新

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	0.6	42.9	55.4	1.2	14.3
販売価格 (当月)	0.0	0.7	37.4	58.5	3.4	16.2



4. 客単価DI

二桁プラス水準で横ばい推移

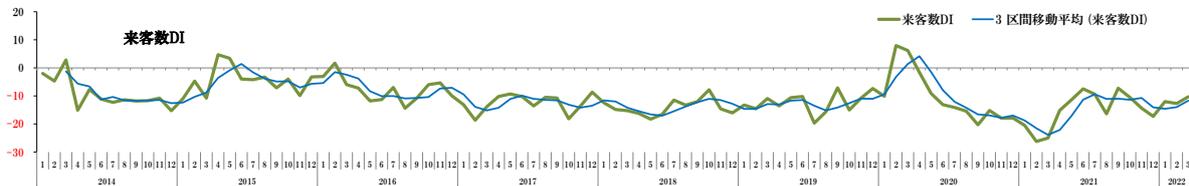
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.0	10.1	29.6	55.6	4.7	13.8
客単価 (当月)	0.7	15.4	29.5	51.0	3.4	10.2



5. 来客数 DI

小幅にマイナス幅を縮小も、二桁マイナス圏が続く

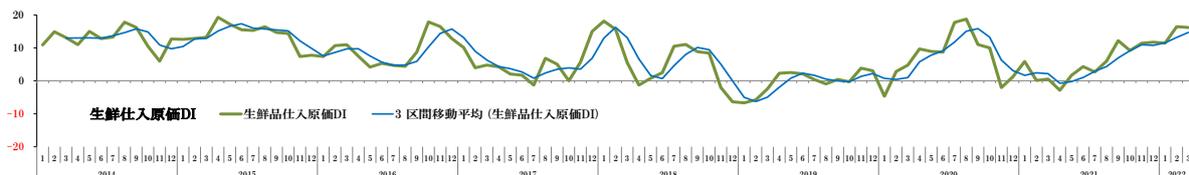
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	12.4	42.0	31.4	12.4	1.8	-12.7
来客数 (当月)	8.8	40.5	35.1	14.2	1.4	-10.3



6. 生鮮仕入原価 DI

前月から横ばいで、二桁プラス圏で高止まり傾向

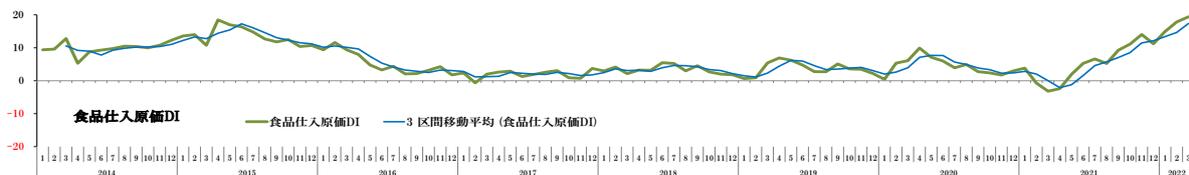
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.8	6.1	28.7	51.2	12.2	16.5
生鮮仕入原価 (当月)	0.7	4.2	33.8	52.1	9.2	16.2



7. 食品仕入原価 DI

上昇傾向が続き、11 ヶ月連続プラス値、調査開始以来の最高値を更新

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	1.8	4.2	27.3	53.9	12.7	17.9
食品仕入原価 (当月)	0.7	2.8	25.9	59.4	11.2	19.4

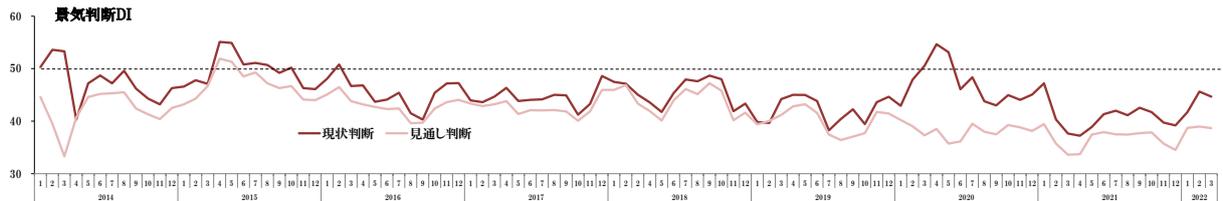


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断はわずかに悪化、見通し判断は前月と同水準

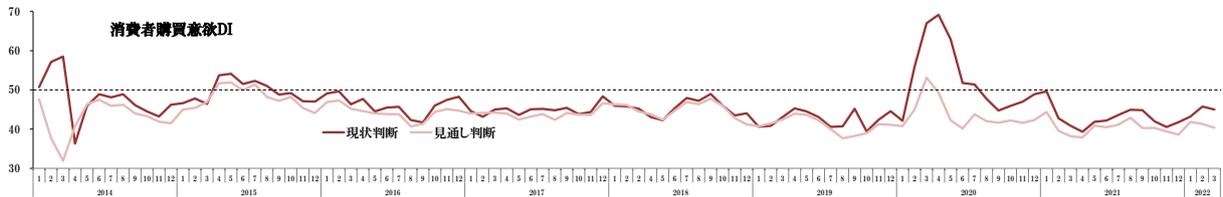
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	2.9	25.6	58.1	12.8	0.6	45.6
【現状】景況判断 (当月)	2.7	28.7	56.7	11.3	0.7	44.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	5.3	40.6	47.6	5.9	0.6	39.0
【見通し】景況判断 (当月)	4.7	41.3	48.7	5.3	0.0	38.7



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断ともに小幅な悪化

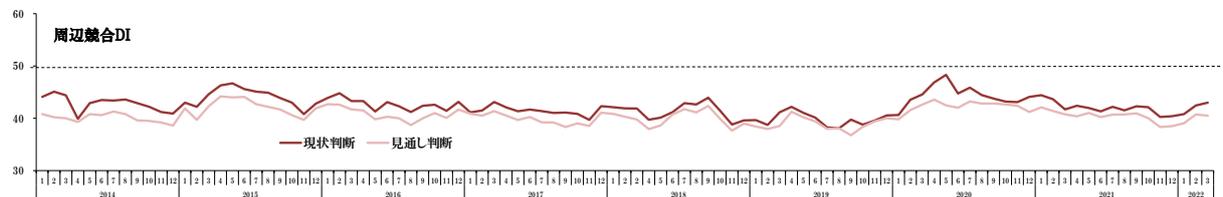
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.8	23.4	65.5	8.8	0.6	45.8
【現状】購買意欲 (当月)	2.7	23.3	66.0	7.3	0.7	45.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	1.2	38.2	54.7	5.9	0.0	41.3
【見通し】購買意欲 (当月)	4.0	34.7	57.3	4.0	0.0	40.3



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断ともに前月水準で推移

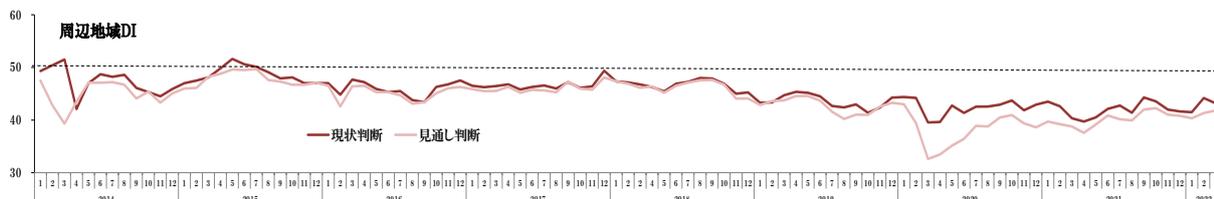
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	3.5	25.0	69.8	1.7	0.0	42.4
【現状】競合状況 (当月)	2.0	27.3	67.3	3.3	0.0	43.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	4.7	30.0	62.9	2.4	0.0	40.7
【見通し】競合状況 (当月)	4.0	32.7	60.7	2.7	0.0	40.5



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断は小幅に悪化、見通し判断は前月と同水準

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	1.7	22.7	72.7	2.9	0.0	44.2
【現状】地域景気 (当月)	2.0	24.7	72.0	1.3	0.0	43.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	1.2	35.3	60.6	2.9	0.0	41.3
【見通し】地域景気 (当月)	2.7	29.3	66.0	2.0	0.0	41.8

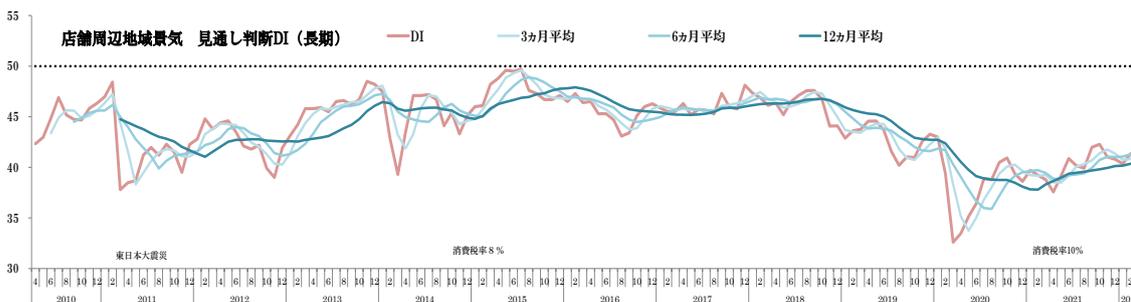
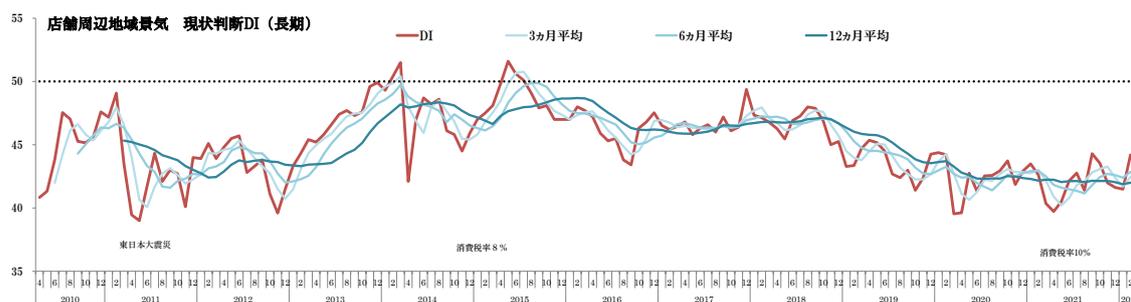


・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。

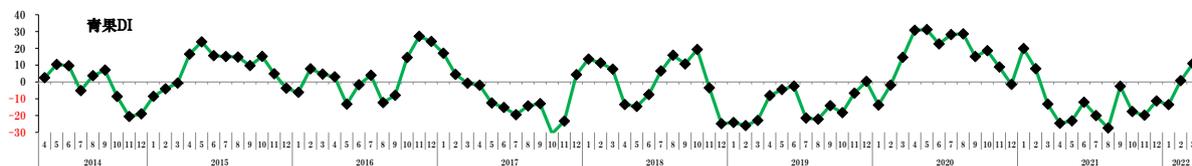
20年2月に大幅に悪化したが、その後持ち直しの動きが続いた。21年以降は、感染状況により上下に振られる不安定な動きが続いている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：10.9（好調）

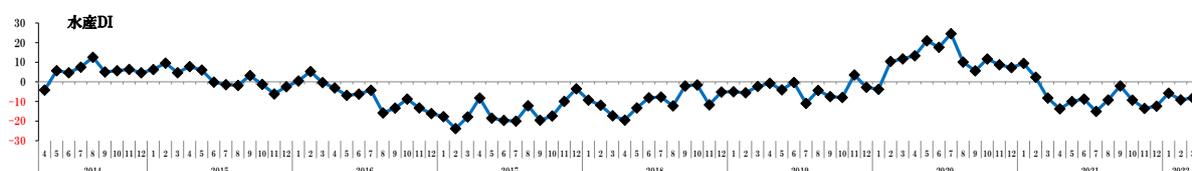
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	7.4	26.5	31.5	24.7	9.9	0.8
青果（当月）	1.4	16.9	30.3	39.4	12.0	10.9



相場が全般的に前年より高値で推移する中、堅調な内食需要を背景に好調に推移した。販売数量の多いタマネギやじゃがいもをはじめとする土物類、キャベツやレタスなどの葉茎類は、前年と比較して値上がり幅が大きく追い風となった。気温の上昇により、サラダ関連野菜が好調に推移した地域もみられた。国産果物ではイチゴは値ごろ感のある価格となり、販売が好調になった店舗が多い。輸入果物は高値となり不振だが、台湾産パイナップルが好調とのコメントもみられた。

2. 水産DI：-8.2（やや不調）

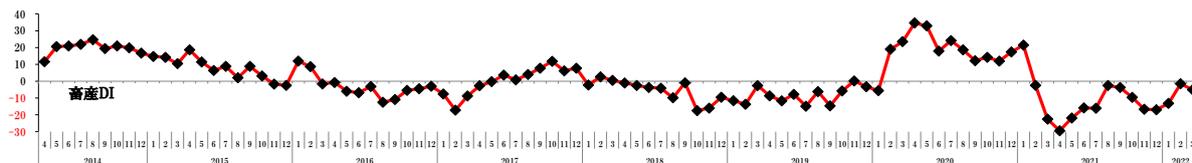
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	9.3	42.0	31.5	10.5	6.8	-9.1
水産（当月）	8.5	39.7	31.9	15.6	4.3	-8.2



漁船の燃料費高騰、不安定な生魚の入荷、輸入品の高騰など、全般的に相場高となっており、販売に苦労したという店舗が多かった。堅調な内食需要を背景に刺身類や冷凍魚介類は動きがよかったものの、カニや輸入魚介類（鮭・えび・タコなど）の価格上昇が激しく、販売数量を落としたという店舗が多い。アサリ産地偽装問題の影響もあり、貝類は不振となった。

3. 畜産DI：-5.1（やや不調）

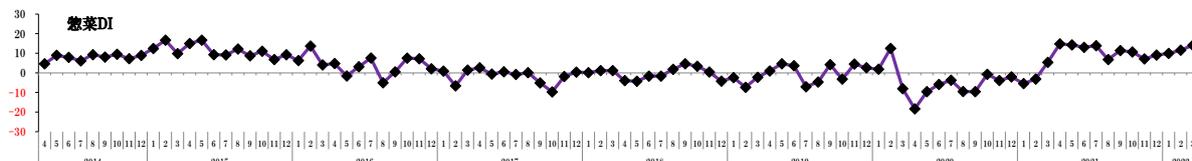
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	9.2	23.3	37.4	24.5	5.5	-1.5
畜産（当月）	8.5	30.3	37.3	21.1	2.8	-5.1



引き続き家庭内食事需要は堅調で、大型パックを中心に動きがよいが、輸入肉の価格に上昇傾向がみられているうえ、入荷が不安定とのコメントがみられた。牛肉は、気温の上昇とともに焼肉用の動きがよい。一方で国産の価格は比較的落ちつきがみられるものの、特にアメリカ産牛肉で価格高騰が続き、販促も打ちにくい状況が続いている。比較的価格が安定している国産豚肉や鶏肉は好調に推移した。ハムなどの加工肉は前年に好調だった反動もあり、伸び悩んだ店舗が多い。

4. 惣菜DI：14.1（好調）

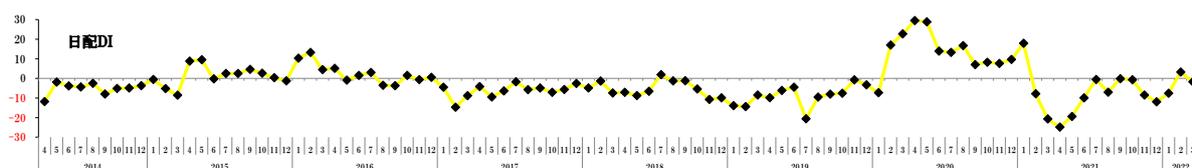
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	1.9	15.6	27.5	44.4	10.6	11.6
惣菜（当月）	0.7	10.6	31.7	45.8	11.3	14.1



まん延防止等重点措置がとられた地域を中心に、外食からの需要流入を指摘するコメントが多かった。ひなまつり、お彼岸などの催事関連商品、花見需要で弁当・つまみ類の予約注文も好調だった。家庭内の昼食需要を背景とした米飯類、また家飲み需要の増加により、焼鳥やつまみ類の動きがよかった。調理油類の値上げの影響で、唐揚げやコロッケなどの揚げ物類が好調に推移した。気温上昇によりサラダ関連惣菜の動きがよかった。一方で、食品原料や資材の仕入原価高騰による収益減を懸念するコメントがみられている。

5. 日配DI：-1.8（やや不調）

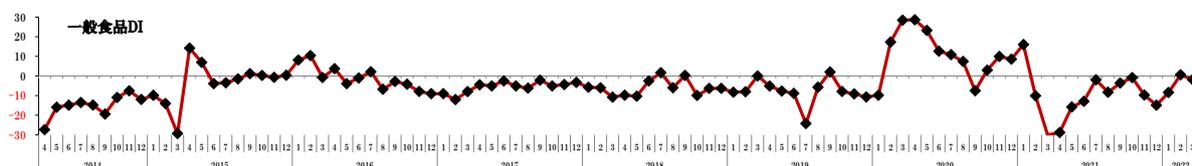
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	4.9	22.2	36.4	27.8	8.6	3.2
日配（当月）	2.8	29.6	40.8	25.4	1.4	-1.8



家庭内食事需要が堅調に推移するなか、一品単価の上昇がみられ、堅調に推移した。利便性が定着した冷凍食品の好調が続いており、価格改定のあったパン類も前年を上回った店舗が多い。気温の上昇により、アイスの動きが良かった反面、練物、豆腐など鍋物関連は伸び悩んだ。前年好調の納豆やキムチなどの発酵食品、チーズやバターなどの乳製品、機能性ヨーグルトには反動減がみられている。

6. 一般食品：-1.9（やや不調）

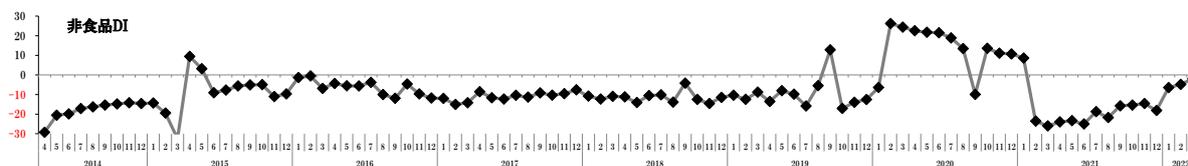
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	6.1	25.8	36.2	23.3	8.6	0.6
一般食品（当月）	5.6	28.7	37.8	23.8	4.2	-1.9



家庭内食事需要が堅調に推移するなか、値上げが行われた商品が多く、単価の上昇を追い風に全般的に好調な販売動向となった店舗が多い。保存性の高い食品(カップ麺、パスタなどの乾麺類、レトルト類、缶詰など)、菓子類で好調が続いているが、一部には前年からの反動減もみられた。値上げのあった油や調味料は、内食需要の継続を背景に好調に推移したが、販促が打ちにくいなど影響を指摘するコメントもみられた。家飲み需要が再び高まりを見せており、ビール類を中心に酒類や珍味などのつまみ類の動きがよかった。全般的な価格上昇の中、米類は相場安により不振が続いている。

7. 非食品 DI：-2.0（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	11.2	28.0	36.0	18.6	6.2	-4.8
非食品（当月）	6.4	28.4	37.6	22.0	5.7	-2.0



感染予防意識の高まりもあり、マスクやハンドソープ、除菌関連などの衛生用品の販売に回復傾向がみられた。外出を抑える生活が続く消費者も多く、ティッシュやトイレットペーパー、キッチンペーパーなどの紙製品や家庭用洗剤が好調に推移したとする店舗が多い。買い回りを控え、ワンストップショッピングをする傾向が販売を後押ししている、とのコメントもみられた。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20 好調： 20 ～ 10 やや好調： 10 ～ 0
 やや不調： 0 ～ -10 不調： -10 ～ -20 かなり不調： -20～

2022年4月調査（3月実績）キーワード TOP3

1. 家庭内の消費需要が堅調
2. 輸入品価格上昇、食品値上げ
3. 客単価上昇、来店頻度の抑制傾向

（参考）2021年4月調査（3月実績）キーワード TOP3

1. 前年緊急事態宣言下からの反動
2. 気温が高い
3. 日曜日が一日少ない

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

3月実績速報版 150社
 2月実績確報版 172社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp